

- 訪日外国人が将来的に3000万人とも言われる中、我が国に訪れた方が、入国時から滞在・宿泊、買い物、観光、出国まで、ストレスなく快適に過ごすことが可能となるICT基盤を整備することが重要。
- 1枚あれば電車、バス、タクシー、買い物等が可能である交通系ICカード及び、誰もが持ち歩くスマートフォンをトリガーとし、クラウド上に登録する自国語情報などの属性と紐づけ、ホテルや百貨店などで、個人に最適な情報・サービスを提供。

## おもてなしクラウド共通基盤

### インフラに係る機能要件

- 本インフラで管理するユーザーの属性情報と、ユーザー及びサービスの同意を得た上で、サービス上で提供されるユーザーの属性情報を一括で検索・取得できること  
(※ どの場合に、どの程度の属性情報を検索・取得できるようにすべきかサービスSWG等にて要検討)
- ユーザーを一意に識別できること
- セキュリティ・プライバシーについて  
(ユーザーに無許可で情報は取得できない、ユーザー属性情報はユーザーが細かく制御、アクセス権限)
- 拡張可能な認証方式とする。
  - ・交通系ICカード及びユーザーID・パスワードの組み合わせ等。将来的に生体認証や二段階認証等多様化も検討。

### 地域実証事業に対する連携機能

- おもてなしインフラに対してユーザーに直接アクセスする標準的アプリとして「おもてなしポータルアプリ」を提供する。
- サービスランチャー（日時や現在地などに対応し関連の深い順序でサービス一覧を表示）等を検討する。
- 開発者サイト（サービスの登録、削除、更新 等）
- デバイス側に必要となる機能、サービス側に必要となる機能

## アーキテクチャ(詳細は別添図等)

### 【全体構成】

- ▶ おもてなしユーザー属性情報提供（ユーザー属性情報の検索・取得の方法）
  - ▶ おもてなしアイデンティティ管理（ユーザー認証、アクセス制御、アカウント管理等）
  - ▶ おもてなしインフラ管理（インフラ監視等）
  - ▶ おもてなしポータルアプリ（サービスポータル等）
- 等

### 技術要件

- ▶ 交通系ICカード（フェリカ）及びスマートフォンを活用する。
  - ▶ 利用する技術としては、「IDm」に加え、用途に応じて「フェリカポケット」等も活用できるようにする。
  - ▶ 「共通ID」を活用する。
  - ▶ 交通系ICカード以外にも非接触ICカード等対応も検討。
  - ▶ プラットフォーム構築やアプリケーション実装については拡張性を持つこと。
  - ▶ オープンソースソフトウェアを極力採用すること
  - ▶ 既存の複数の決済系システムとの連携を目指すこと
  - ▶ ユーザーからのアクセス、リクエストへスムーズなレスポンスを可能とすること。
  - ▶ セキュリティについては、扱う情報のレベルに応じた対策が必要となること  
（本サービス関係者に対してセキュリティガイドラインを策定）
  - ▶ 信頼性・可用性・保守性等を満たすこと
- 等

	主な意見
<p>個人情報の扱い</p>	<p>個人情報(基本4情報及びパーソナルデータ等)は慎重に取り扱うことが重要で、その収集、利用が個人情報保護法などとの関係で適法かの確認に加え、グローバルレベルでの検討や「パーソナルデータの利活用に関する制度見直し方針」などの状況を踏まえることが重要。</p> <p>個人情報取扱事業者は、第三者に提供される個人データの取り扱いにおいてあらかじめ、本人に通知し、又は本人が容易に知り得る状態に置いているときは、当該個人データを第三者に提供することができることになっている。「共同利用」については、制約事項が多いためクリアするための運用設計が重要</p> <p>ユーザー基本情報はアクションプランの実現に必要なものに限定することが望ましい。(例年齢、言語、性別、国籍、食の禁忌、オリジナルID等)また、属性データ項目は、高い安全性の担保が重要。</p> <p>おもてなしクラウド上でのクレジットカード情報保有は、国際的なシステムのルール等の準拠が必要であり、見送るべき。決済サービスの提供はサービスとの連携で対応するべき。</p> <p>サービス提供で扱うユーザー属性情報は、ユーザー及びサービス事業者に帰属し他への提供は制限的であるべき。</p>
<p>サービスの考え方</p>	<p>サービスには、サービスの開発者以外に委託を受けて開発を行う者など複数のパターンがあり得る。</p> <p>サービスが利活用しやすく参加しやすいような構造とすることが必要。</p>
<p>おもてなしクラウドのシステムについて</p>	<p>様々なサービス上で提供されるユーザーの属性情報を一括で検索・取得させることは、提供サービス側の開発の負荷、守秘性から実現の難易度が高い。</p> <p>インバウンド客が任意のタイミングでユーザー属性情報を取り消すことは構造が複雑となる。</p> <p>オプトアウト(勝手に送りつけてくる情報を個人が回避すること)の定義が必要</p> <p>多数のサービス事業が「許可」「認可」「停止」「削除」などのイベントごとにシステム連携していくのは、システムの負荷が大きく、クラウドに依存しない連携構造が必要</p> <p>クラウドベースの利用や交通系カード・スマートフォンの活用では、オフラインでの稼働やデバイス側のローカル処理の構造化の検討も必要</p> <p>サービスの中で「公序良俗に反するもの」等が参加できないよう、システム上防げる仕組みが重要。</p>

	主な意見
提供されるサービスについて	<p>防災・災害対策における各種公共サービス・民間サービスの連携は、国や東京都がリーダーシップを発揮して頂きたい</p> <p>日常的なサービスの使い勝手向上だけでなく、緊急時のサービスとの連携についても、外国人や障がい者にも使い勝手のよいユーザインタフェースとともに、考慮が必要</p> <p>「パスポート情報」のPDF化による利用は、偽造や悪用の側面から国際的なすりあわせ、十分な管理・運用設計が必要</p>
今後の想定	<p>今後想定される様々なサービスIDと、おもてなしプラットフォームとで管理されるユーザーIDとが連携することで、ユーザーがシームレスに利用できるよう、サービス連携のみならず、ID連携を行うための標準的なインターフェイス仕様を準備・公開していただきたい</p>

